

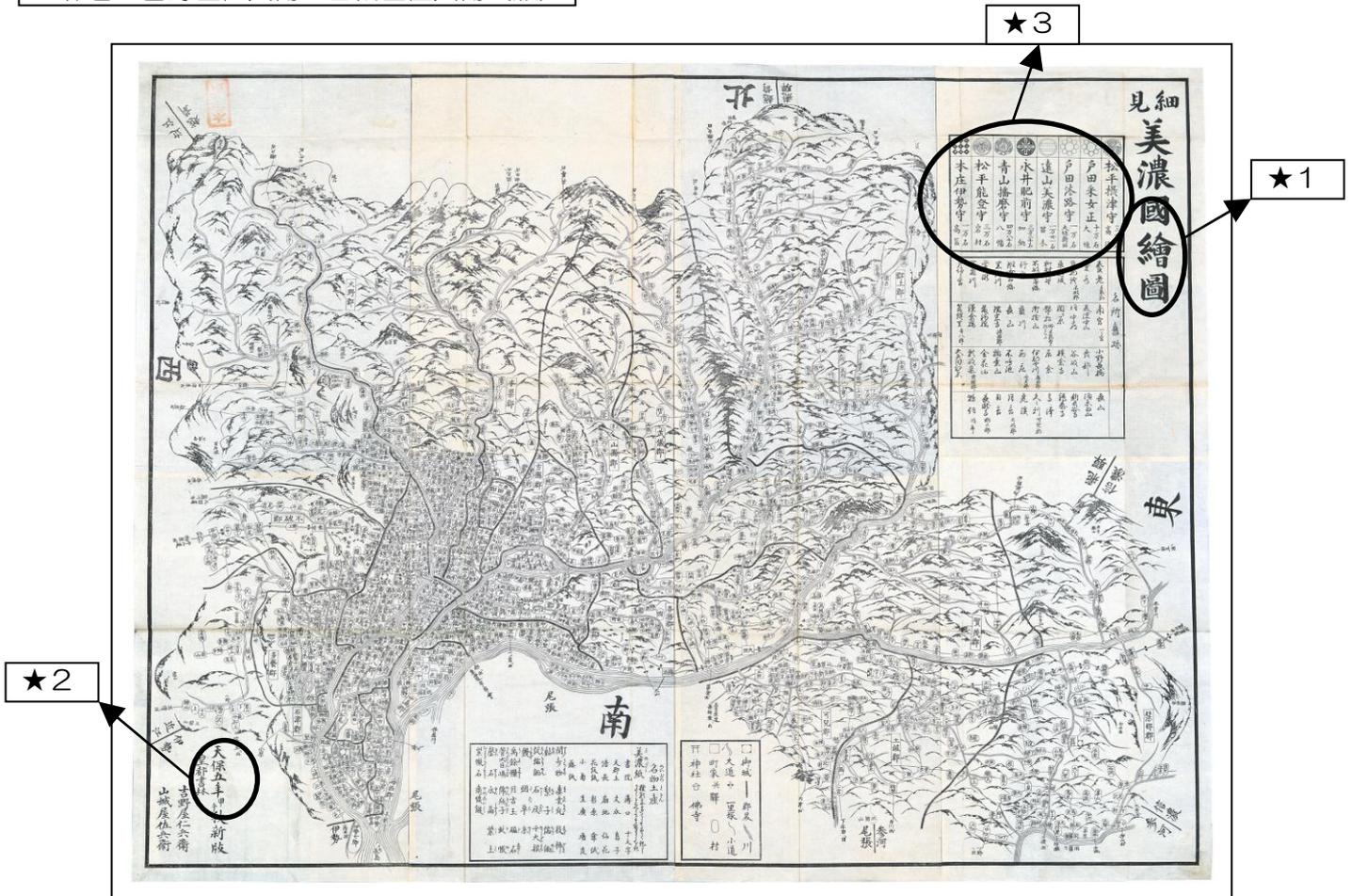
## 授業で使える当館所蔵地図

### No. 1 『美濃国大絵図』

作成年：1834（天保5）年

サイズ：89×116cm

作者：吉野屋仁兵衛・山城屋佐兵衛（版）



### 【解説】

地図中の支配者とそれぞれの石高の一覧表など旧来の国絵図の性格は残しているが、名所旧跡一覧、名物土産一覧、寺社・神社・駅などの凡例から、旅を主目的とした国絵図と考えられる。ちなみに、土産のうち美濃紙は16種類が表示されている。木曾、長良、揖斐の三川が合流する美濃平野部では、村型がびっしりと記載され、この地域の開発の進展を想像させる。さらに、これらの三川の合流、分流の著しさは水害の多さも推測される。地図全体は木版黒刷りで派手さはないが、制作費を抑えて販売を増加させようとする意図もうかがえる。

### ★1 国絵圖（国絵図）

近世の豊臣政権、江戸幕府が諸大名らに命じて作成・提出させた一国単位の絵図。1591（天正19）年、豊臣秀吉が禁裏に献納するという名目で、日本全国の国絵図と御前帳（検地帳）を諸大名らに命じて作成・提出させたことに始まる。江戸幕府は、主要大名に命じて作らせた国絵図は、慶長国絵図（1604～）、寛永国絵図（1633～）、正保国絵図（1644～）、元禄国絵図（1697～）、天保国絵図（1835～）と呼ばれる5種類がある。これらの国絵図を元に、一般に流布した刊行国絵図（版行図）も出版され、それらは『細見美濃国絵図』などのように固有のタイトルを持っていた。

### ★2 天保

日本の元号の一つ。文政の後、弘化の前。1830年から1844年までの期間を指す。江戸幕府将軍は徳川家斉（11代）、徳川家慶（12代）。享保の改革、寛政の改革と並んで、江戸時代の三大改革の一つに数えられる天保の改革が行われた。老中水野忠邦が、幕府財政の再興を目的として行った。

★3 美濃国の大名

|   |   |   |   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|---|---|---|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| 本庄伊勢守   | 松平能登守   | 青山播磨守   | 永井肥前守   | 遠山美濃守   | 戸田淡路守   | 戸田采女正   | 松平摂津守  |
| 高富 一萬石  | 岩村 三萬石  | 八幡 四万八千石  | 加納 三万石  | 苗木 二万二千石  | 大垣新田 一万石  | 大垣 十萬石  | 高須 三萬石   |

領主の家紋が記されている。

右側に石高、左側に藩の名前が書かれている。

- \*高須：美濃国石津郡高須（岐阜県海津市）付近を領有した藩。江戸中期以降は尾張藩支藩。
- \*大垣新田：美濃国・三河国両国に所領を持つ藩。大垣藩の支藩で、別名は畑村藩。
- \*苗木：現在の岐阜県中津川市苗木に存在した最小の城持ちの藩。美濃国の恵那郡の一部と加茂郡の一部を領地としていた。
- \*岩村：現在の恵那市岩村町周辺を支配した藩。
- \*高富：現在の山県市高富に存在した藩。

【用語について】

・美濃国

かつて日本の地方行政区分だった令制国の一つ。東山道に位置する。別称は濃州（のうしゅう）。領域はおおむね現在の岐阜県の南部である。古くは、「三野国」（石神遺跡木簡・飛鳥池木簡(677年12月)・藤原宮木簡）や、「御野国」（大宝戸籍(大宝2年(702年))）とも記した。平城宮から出土した木簡に、「美野国」と表記されたものもある。『古事記』では「美濃国」・「三野国」と記載。藤原忠通書状案（天理図書館所蔵文書）には「御庄々、武義（美乃国）、山上（美乃国）、吉田（美乃国）、保元々年七月」と記載されている。『新抄格勅符抄』（神事諸家封戸大同元年牒）にも、「美乃国」とある。

【利用の例】

○中山道の宿場町を知ることができる。

- 中山道を地図上で確認することができる。
- 岐阜県の宿場町の名と場所を知ることができる。

います せきがはら たるい あかさか みえし ごうど かろう うぬま おおた ふしみ みたけ ほそくて おおくて おおい  
 今須—関ヶ原—垂井—赤坂—美江寺—河渡—加納—鶉沼—太田—伏見—御嵩—細久手—大湫—大井—  
 なかつがわ おちあい まごめ  
 中津川—落合—（馬籠）

○当時の村名を知ることができる。

- 郡上一揆を取り上げて学習する際に、村名などが具体的に表記され、位置関係を理解できる。
- 前谷村の定次郎、二日町の伝兵衛など

○江戸時代の支配区分が分かる。

- 江戸時代、徳川幕府は美濃を小藩に分割した。最大でも大垣藩の10万石の他、苗木藩、岩村藩、八幡藩、高富藩、加納藩、尾張藩附家老の竹腰氏の今尾藩、尾張藩分家の高須藩があった。

○当時の美濃国の名物土産が分かる。

- 江戸時代の名物土産の多くは、現在の伝統工芸品となっている。
- （例）美濃の和紙、関の刃物